

此頃小望遠鏡で面白い星

N K 生

○オリオン座52 (Σ795) 二重星

赤徑 5時43.7分 赤緯北 $6^{\circ} 26'$

6.2 等と6.2等の重星で位置角 209° 距離 1.6 秒で三時には都合の良い試験星ではあるが、良い望遠鏡でないとは分離は困難である。オリオンαの近くであるが探しにくい星である。Σはワイルヘルム ストルーベ W, Struve の番號にてΣ(シグマ)795とよぶ。

○乙女座γ 連星

赤徑 12時37.7分 赤緯南 $1^{\circ} 0'$

最も有名な二重星の一つで黄色の3.6等3.7等さの重星である。現在の位置角は 323° 距離 5.6" で良好なる一吋で二星に見える。此の星は週期約 190 年の連星で二星の距離最小 0.4" から 6.3" に到るので距離は現在は減じつゝ、わり位置角は増加して居る。

○M 51 N. G. C. 5194 獵犬座渦狀星雲

赤徑 13時26.5分 北 $47^{\circ} 36'$

此の星雲の位置は大熊座の南獵犬座の北端にある。1吋8倍でぼんやりとした小さなものを見る事が出来る。3吋では大きく見ぬるが渦狀は全く見えないから失望する。たゞぼんやりした大小の二つの薄い光の塊があるのみである。10吋では随分明ろいが其れでも二つの枝がかろうじて認め得る位である。

○北冠座R 不規則變光星

赤徑 15時45.3分 北 $28^{\circ} 24'$

興味多き變光星として白鳥SS型の星と共に絶えず注意されて居る星である。變光は5.5等位から13等まで到るので多く6等星位で北冠の圓内に滑く肉眼でも見えて居る6等位で絶えず消長して居るが時々急激に8等時に13等以下まで下り小望遠鏡では見えない。又此の減光は何時起ることも限らず少しも油断ならぬ星である。双眼鏡でよく觀測出来る星圖を入れておく。

○蝸座β 三重星

赤徑 16時 0.8分 赤緯南 $19^{\circ} 36'$ 2.9等:5.1等 (H. R.) 位置角 25° 距離 13.3秒

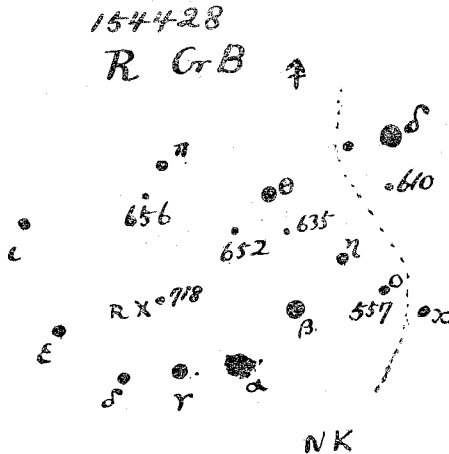
2.9等の星は(バーナム氏)により18時半にて二重なる事を發見された。伴星は19.7等で位置角 95° 距離 1.0" であるから小望遠鏡では見えぬ遊星や月がしばしば近づいたり又掩蔽を起こす。

○蝸座α (Antares) 二重星

赤徑 16時24.5分 南 $26^{\circ} 16'$

夏南天に輝く赤い星として知られて居る。此の星は7.1等星を位置角 270° 距離 3.0秒の所に有して居つて大きな星が近くにあるので非常に見にくい。彼の Herchel

(William) が此の伴星を逃がして居る位で空氣の餘程靜かな時に認め得る京都では4吋でも認める機會は少ない。口径よりも空氣の試験によい。William Herschel 位の人が逃した伴星をどうして發見したか、其れには面白い話がある。1819年 Burg が此の星が掩蔽された時にさきに緑の小星が飛出して来てしばらくして赤色星が出た事を報じた。しかし他の觀測者は伴星を認めなかつたので否定されて居たがミチ



エル Mitchel がシンシナチ Cincinnati に於て11時にて見つけたので證明された。掩蔽の場合には主星が完全に月の爲にかくされるので二三秒之間だけ小星が見えるので此の現象は其の後しばしば認められた。3時では薄明中に見える。

○M 13號 N. G. C. 6205 ヘルクレス座球狀星團

赤徑 16時38.8分 北 36° 36'

位置はヘルクレス座ηからぐまでの約三分の一の所にある。肉眼でも約六等位のぼんやりした星に見え双眼鏡ではよく見える。2.3時の望遠鏡では箇々の星が見えず中心の輝いた球状のものにしか見えないが四時では多少の星を認める。其の美觀を味はんとするには少なくとも十時を要する。數百數千の小星が一所に密集して生きいきして居る所は望遠鏡で無くても味はれぬ壯觀である。

○ヘルクレスα (Σ2140) 變光星 重星

赤徑 17時 11.0分 赤緯 北 14° 02'

3等: 5.5等 位置角 110度 距離 4.6"

3等の方を變光星である。主星は黄色で伴星は強い青色であつて重星中最美なものの一つである。2時100倍にて容易である。主星は31等より 3.9等まで變光し不規則である。

○M.22 N. G. C. 6656號 射手座座球狀星團

赤徑 18時31.5分 赤緯南 24° 3'

此の球狀星團は射手座λの北にあつて甚だ明るいもので夏晴夜肉眼に見ゆるものである。一時や双眼鏡では小彗星の様に見えるが四時では多くの微星が見ぬ十時では球狀星團の壯觀を樂しむ時が出来る。ヘルクレス座13より散開である。

○琴座ε 四重星

赤徑 18時 11.7分 赤緯 北 39° 35'

琴座εはε¹はε²の離れた對で其の距離は207"あるから肉眼の良い試験星である。双眼鏡であれば容易に二重に見える。ε¹ε²は二時の良い試験星で二星に見える。

	等級	位置角	距離
ε ¹	a 5.1	b 6.0	7° 3.0
ε ²	5.1	5.1	117 2.3

3時で二重に見えぬ望遠鏡はレンズが良くないさ見てよい。ε¹とε²の間に二三星があるが 9.5等の星だけが小望遠鏡に見える。

○琴座ζ 變光星及び二重星

赤徑 18時47.1分 赤緯 33° 16'

有名な變光星で1784年グードリックの發見にかゝるもので變光範圍は 3.4—4.1等で週期は 12.908日で漸次に長くなつて居る。隣のγと比較するに變光はよく認め得るが良い比較星が無いので觀測は困難である。第一少しではあるがγが變光星であり比較星に肉眼的二重星が多い。望遠鏡で見ると直ちに青色の美しい6.7等の伴星が見える。位置角は 149° 距離は 146秒である。

○琴座θ 二重星

赤徑 19時 12.9分 北 37° 57'

4.6等: 10等(黄;青) 位置角 71° 距離 100秒 3時で容易である。

○M 27 小狐座亞鈴星雲 N. G. C. 6853

赤徑 19時 56.1分 赤緯 北 22° 30'

亞鈴星雲 Dumb bell Nebula と呼ばれ

1時8倍にて見出す事が出来る。小狐座14の南にある。何が故に亞鈴さよばれるか三時を持つ人なれば分かるが二つの大團丸い星雲がくつついて見て亞鈴の様であるからである。約一世紀前英のロツスが此れを星に分解したと言はれたが其れは誤で全くの瓦斯星雲である。

王立天文學會の金メダル

王立天文學會(英國)は今年教授 A. A. マイケルソン氏に彼が天文學的測量に干渉計を適用せし功勞に對して贈らるゝ事となつた。之れより先き恒星の直徑の測定に干渉計を適用するの可能性は 1868年科學學會の報告にフイゾーが發表し、1874年には其方法の試験をステーフアンがマルセーユ天文臺の大反射望遠鏡を使用したマイケルソン氏は 1890年に此問題を理論的に、翌年には實際的に充分進歩せしめた。而して世で尚周知の如く、ウイルソン山天文臺で大成功を以つて近年此の方法が適用せられたのは彼の提議によつたのである。